

令和6年度 第2回 在宅医療・介護連携推進部会（R6.10.2）まとめ

日時	令和6年10月2日（水）14時00分～15時30分
場所	東郷町町民会館 大会議室
出席者	委員 ※敬称略、順不同 松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会） 山本健二 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部） 佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会） 福島美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護連絡協議会） 中村安裕 東郷町北部地域包括支援センター 荒川和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑 松山陽二 居宅介護支援事業所（介護支援もみの木） 朝倉隆行 居宅サービス関係（メドック東郷） 池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし） 中村万季 訪問看護師（東郷町国民健康保険東郷診療所訪問看護ステーション） 早川孝志 介護支援専門員（東郷町介護支援専門員連絡会） 磯村淳子 訪問介護事業所（マリアンヌヘルパーステーション） 久田智之 理学療法士（東郷町リハビリテーション連絡協議会） 村井良則 オブザーバー（東名古屋医師会在宅医療介護総合研究センターやまびこ） 徳井春美 東郷町在宅医療・介護連携支援センター受託者（東郷町在宅医療・介護連携支援センター やまびこ東郷） 曾雌里枝 東郷町在宅医療・介護連携支援センター受託者（東郷町在宅医療・介護連携支援センター やまびこ東郷）
欠席者	山本健二 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部）
傍聴者	なし
事務局	高齢者支援課長（進行） 高齢者支援課職員 3名
議題	1 報告 令和6年度在宅医療・介護連携推進事業に係る事業計画について 2 議題 (1) 令和7年度医療と介護の専門職出張講座のテーマ及び内容について (2) 令和6年度在宅医療・介護フェアについて (3) 町としてのACPの取組の進め方について 3 その他
配布資料	次第 資料1－1 令和6年度 東郷町在宅医療・介護連携支援センター事業計画について

	資料 1－2	豊明東郷医療介護サポートセンター「かけはし」の多職種連携を 目的とした取組み
	資料 2－1	令和 6 年度医療と介護の専門職出張講座チラシ
	資料 2－2	令和 6 年度医療と介護の専門職出張講座予定表及び実績
	資料 2－3－1	令和 6 年度御岳老人クラブ出張講座アンケート集計
	資料 2－3－2	令和 6 年度 J A さわやか傍示本出張講座アンケート集計
	資料 2－3－3	令和 6 年度 傍示本老人クラブ出張講座アンケート集計
	資料 3－1	令和 6 年度 在宅医療・介護連携フェアについて（案）
	資料 3－2	参考 日進市民公開講座「看取りの裏側教えます！！」開催リポ ート

1 あいさつ（部会長）

2 報告事項

令和 6 年度在宅医療・介護連携推進事業に係る事業計画について

今年度から更なる町の在宅医療・介護連携推進事業の充実に向けて、令和 6 年 5 月から東名古屋医師会に委託し、在宅医療・介護連携支援センター「やまびこ東郷」を立ち上げた。町として、多職種の顔の見える関係性の構築、医師や歯科医師との垣根を低くすること、電子@連絡帳の利活用について、東郷町としての A C P の取組について主に進めていきたいと考えている。第 1 回の在宅医療・介護連携推進部会では、事業計画について（案）示していたが、具体的な事業計画が決定したため資料 1－1 に沿ってやまびこ東郷より報告した。やまびこ東郷に委託をすることとなったが、従来通り在宅医療・介護連携推進部会で部会員に諮りながら、皆で進めていくスタイルは変更しない。

その他、昨年度と変わらず豊明東郷医療介護サポートセンターかけはしも継続して共同運営を行い、事業を進めていく。

3 議題

(1) 令和 7 年度医療と介護の専門職出張講座のテーマ及び内容について

- ・令和 6 年度の実績について資料 2－2 に沿って報告した。今年度のアンケート結果は資料 2－3－1～2－3－3 のとおり。
- ・令和 6 年度に出張講座を実施した部会員より、対象者が高齢の方が多く耳が遠い方が多いため、声の大きさに気を付ける必要がある、内容についても厳しい話ばかりではなく前向きになるような話の内容にする必要があると実施をしての感想を述べられた。
- ・令和 7 年度医療と介護の専門職出張講座のテーマ及び内容について、令和 6 年度と変更したい職能団体の有無について確認をした。新たにやまびこ東郷が講座のテーマを新規で挙げ、やまびこ東郷の職員が講師となり開催する出張講座が実施できるよう、テーマ及び内容等を検討し町へ提案することとなった。

(2) 令和 6 年度在宅医療・介護フェアについて

- ・資料３－１に沿って、在宅医療・介護フェアについての概要と、今回の部会で諮り、意見をもらいたい決定したい事項について説明をした。
- ・部会の進行役については、部会委員からの指名があり、松浦部会長で決定した。
- ・第２部のパネルディスカッションの看取りの場の設定について、委員から１人ずつ意見を聴取した。看取りの場の設定について「在宅」「施設」「ホスピス」の３場面の提案が挙がったが、２部構成で検討しているため、３場面での設定は時間が十分ではないこと、「ホスピス」は特殊な性質でありふれた場所であるわけではないことから、「在宅」「施設」の２場面でのパネルディスカッションを行うこととなった。第１部の野田医師の講演で、病院（ホスピス）での看取りの内容を含めてもらうこととなった。パネリスト等については、今後やまびこ東郷を中心として、部会委員に知恵をいただきながら詳細を決定していくこととなった。
- ・展示ブースでは、基本Ａ案（昨年度と同様に、部会委員が所属する各職能団体等による展示）とする。今回のテーマが「看取り」であるため、看取りにまつわる展示（看取りをやっている施設の紹介等）を含めて行う方向で検討を行い、やり方を工夫してＡＣＰのカードゲームや相談コーナーの開設ができるとよいと意見が出た。

(3) 町としてのＡＣＰの取組の進め方について

今年度から具体的に東郷町としてＡＣＰの取組を進めていきたいことを説明し、部会委員１人ずつ意見を聴取した。下記、部会委員からの意見。

- ・まずは専門職がＡＣＰについて理解をする必要がある。専門職もＡＣＰについて、まだよくわからないと感じている者も多くいる。
- ・日進市がＡＣＰに関するプロジェクトを立ち上げたように、東郷町も専門職同士の意見交換の場などがあるとよい。専門職が考え、意見交換することに大きな意味があり、一方的に講義を受けるなど学ぶだけではない。
- ・住民への周知啓発では、「ＡＣＰ」という英語表記は住民に理解が得られにくい。終活や人生会議の方が理解がしやすい。住民にいかに親しみやすく理解を深めてもらえるかが肝となる。
- ・あまり重く考えすぎず、まずは知ってもらうということが大切であり、カードゲームなど取っ掛けしやすいものがあるとよい。今年度の在宅医療・介護フェアで住民に知ってもらえる機会となればよい。
- ・包括支援センターでサロン向けのミニ講座でＡＣＰについて少し触れたことがある。在宅医療のメリット・デメリットについて伝えた。家族で意思統一をしておくことが大切であることを説明をした。

部会委員からの意見を踏まえ、東郷町の専門職意見交換ができる場などを今後検討し、東郷町としてＡＣＰの取組を少しずつ進めていきたい。

4 その他

電子@連絡帳にて、在宅医療・介護フェアをはじめとする随時情報を発信するため、定期的に確認をお願いしたい。

以上